

米国議会図書館所蔵『源氏物語』の本文の様相

——空蟬巻を中心に——

菅原郁子

一 はじめに

本稿では、米国議会図書館 (Library of Congress) 所蔵『源氏物語』(以下、「米国議会図書館本」とする) の空蟬巻を中心に考察する。

米国議会図書館¹⁾ (LC control No.2008427768) とは、米国議会図書館アジア部日本課 (Library of Congress, Japanese Rare Book Collection) 211008年より所蔵となった『源氏物語』の写本である。全五十四帖揃、縦二五〇二五・二糎、横十六・八〇十七糎、列帖装(綴葉装)、料紙は鳥の子、題簽は柿渋色、表紙は濃青色、後補改装かと思われ、前蓋に「源氏 全部五十五冊／五辻殿諸仲御筆／外題三条西殿実隆御筆」と金字された黒塗箱に収められ、古筆了仲(一六五六〜一七三六)の折紙が添えられている。了仲の折紙の記載によれば、本文

は五辻諸仲(一四八七〜一五四〇)、外題は三条西実隆(一四五五〜一五三七)の手によるものである。ゆえに、書写年代は米国議会図書館蔵書目録において、実隆没年の一五三七年以前とされている²⁾。

米国議会図書館本については、すでに先行研究をふまえ、米国議会図書館本の素性や伝来について考察し、桐壺・若紫巻の実態について検証している³⁾。そこで本稿では、さらに空蟬巻の本文の様相を探っていくこととする。

二 素性と伝来

米国議会図書館本の素性と伝来について概略を述べておく。米国議会図書館本に添えられた古筆了仲の折紙には、「源氏物語四半本 全／五辻殿諸仲卿真筆／外題三条西殿実隆公／御一筆無疑者也／五月下旬 了仲⁴⁾ 鈞⁵⁾ 斎⁶⁾

（陽刻朱印）」とある。つまり了仲は、この『源氏物語』は五辻諸仲の真筆であり、外題は三条西実隆によるものに相違ない旨を正徳元年（一七一）五月下旬に記している。了仲は天保七年（一八三六）版『古筆了伴大人閨和漢書画古筆鑑定家系譜並印章』によれば古筆別家の三代目であり、「釣玄斎」という印章を折紙に用いていた。

了仲の折紙に登場する米国議會図書館本の書写者とされる五辻諸仲は天文七年（一五三八）十二月二七日に従三位に叙せられて堂上家に加わっている。明応九年（一五〇〇）の拝賀の記録を記した『諸仲藏人奏慶記』などがあり、また『日本書流全史』によれば、実隆を祖とする三条殿流（逍遙院流）に諸仲の名が見える。『実隆公記』永正五年（一五〇八）九月七日条には、諸仲が五枚の三十六歌仙の画の色紙に歌を書いてほしいと所望し、色紙を預け置いた、という記述も見えることから、諸仲は和歌や書を通して、米国議會図書館本の折紙に見える三条西家と関わりのあった人物であることが確認できる。

拙稿でも指摘したが、諸仲が書写したとされる『源氏物語』について、渡部榮氏の著書である『源氏物語従一位麗子本之研究』に興味深い記述が見える。渡部榮氏（一九一三～一九九一）は国文学者、古文書学者であり、北小路健という名で執筆活動も行っていた人物である。

東京文理科大学国文科を卒業、玉井幸助氏、山岸徳平氏らに師事し、後に本文研究の末、京極北政所（従一位麗子）の書写した「従一位麗子本（渡部氏は著書の中で「じゅいちいよしこぼん」とルビを付す）」の系統を伝える本文、いわゆる転写本を所持していた人物である。

渡部氏の『源氏物語』の本文研究の主軸となった従一位麗子本とは、平安時代末期に源麗子が書写したとされる『源氏物語』の古写本のことである。源麗子は村上天皇の子具平親王の孫で、源師房と藤原道長の五女尊子との娘であり、藤原師実の妻となった人物である。従一位麗子本は、「麗子本」や「京極北政所本」とも呼ばれ、その存在は、『河海抄』に内容についての言及があり、鎌倉末期に河内守であった源光行・親行の親子によって作成された河内本の基となった本文の一つであるとされているものである。この転写本と見られる写本が昭和初期になって出現したものと考えられる。

興味深いのは渡部氏が指摘するこの麗子本を調査するにあたり、渡部氏は麗子本に対校した本文について、

此所までの部分に就いては殆ど必要は無かつたのであるが、此の後の部分の論述に対して、かなり重要な資料を提供する一本を紹介し、以下考察の便宜上

本文を併記する事とする。此の本は縦八寸四分、横五寸六分、青色の表紙に正中に朱色の題簽を押し、鳥子紙の粘葉装で、五十四冊一筆本である。一丁平均十行書きの部分が最も多く、十一行の部分も多少存する。知人の仲介を得て借覧し校合研究の機をあたへられたものであつて、現在東京市居住の某氏の珍藏される所である。奥書が存しないので、確実には誰の手に依つて書写され、如何なる系統の親本に依つて転写されたものかは明かにしがたいが、次の如き古筆の極め札が附されてゐる。

源氏物語四半本全五辻殿諸仲卿真筆外題三條西殿実隆公御

筆無疑者也

正徳元年

五月下旬

古筆

了仲

印

と記していることである。⁽¹⁴⁾つまり、麗子本と対校した本文には「源氏物語四半本全五辻殿諸仲卿真筆外題三條西殿実隆公御筆無疑者也」という極札の付いた五辻諸仲卿の真筆本（以下、「諸仲本」とする）を用いたというのである。これは先ほど述べた米国議会図書館本の古筆了仲の折紙の記述と全く一致するのである。つまり、渡部

氏が見た諸仲本に添えられていた折紙と、米国議会図書館本の折紙とは同一のものと考えられる。さらに諸仲本について、渡部氏の指摘する「縦八寸四分、横五寸六分」「青色の表紙に正中に朱色の題簽を押し、鳥子紙の粘葉装で、五十四冊一筆本である。」は、「粘葉装」という記述以外は米国議会図書館本の書誌形態とほぼ一致している。

そこで拙稿では、渡部氏が見ていた諸仲本と現存する米国議会図書館本は同一のものであらうという可能性を示唆し、諸仲本本文と米国議会図書館本の本文の同一性について明らかにした。

三 桐壺卷・若紫卷の本文

米国議会図書館本は、書誌概要、折紙の一致などから考えると、諸仲本と同一の本文であるといえる。

諸仲本は現在、渡部氏の『源氏物語従一位麗子本之研究』に掲載の翻刻活字本文においてしか確認することができない本文である。桐壺卷において、渡部氏は麗子本に近いと思われる諸仲本の本文箇所を任意に選び取り、麗子本、諸仲本、河内本（尾州家本）の活字翻刻を上・中・下段の三段に併記し、気になる箇所には青表紙本の

翻刻本文(『湖月抄』)を添えている。渡部氏は、「桐壺の巻において使用した諸仲本に就いては所蔵者の都合により、現在、此れ以上詳細に他の部分にも亘つて比較説明する自由を與へられて居らない。併し全部の校合、調査は既に終了して居るので、近く第二の手続として、諸仲本の全貌を明らかにしたい」と述べてはいるものの、桐壺巻しか本文比較を行っていない。つまり、諸仲本は五十四帖の全てにおいて本文を比較することは出来ず、桐壺巻の翻刻本文の抜粋のみが存在しているということになる。

そこで、桐壺巻の抜粋箇所⁽¹⁾の諸仲本【諸仲】と米国議会図書館本【LC】、麗子本【麗子】とを比較し、さらに現存する『源氏物語』の古写本三十一本とを対校したところ、諸仲本と米国議会図書館本には両者にしか見られない独自の共通異文三十五例、諸仲本と米国議会図書館本、麗子本に見られる共通異文十九例のあることが判明した。諸仲本と米国議会図書館本が極めて近い本文であり、いかに他の『源氏物語』諸写本と孤立した共通異文を持っているかということ⁽²⁾を明確にするために、両者にしか見られない独自の共通異文三十五例の中から、九例を抽出し、諸仲本と米国議会図書館本が極めて近い本文、同一の本文であると立証した。

その上で、米国議会図書館本の桐壺巻の本文は、対校した古写本三十一本の中では、大島本や三条西家本などの本文に近いが、従一位麗子本を含めた河内本の素養があり、陽明文庫本・伝阿仏尼筆本・慈鎮本・飯島本・国冬本などと近い傾向の本文をも有していることがわかった。

また、若紫巻の本文について言及した。若紫巻は、米国議会図書館本の本文自体に欠落した本文部分がある。

光源氏が若紫を垣間見し僧都に打診する場面、藤壺と光源氏の禁忌の逢瀬や懊悩する藤壺の場面、紫の上が二条院にやってきたその後の光源氏の場面など、物語としては重要な場面が欠落している。

それをふまえた上で、欠落した部分以外の若紫巻の本文を、現存する『源氏物語』古写本十七本の本文と対校したところ、若紫巻は凡そ大島本に近い本文であることがわかった。さらに、大島本と共通しない異文箇所七十五例を見ると、池田本三十五例、御物本三十四例、三条西家本三十三例、肖柏本二十七例と一致した。さらに、大島本と共通しない異文箇所七十五例には、尾州家本、高松宮本、天理河内本、橋本本などに共通する表記も見え、麦生本や阿里莫本としか共通しない表記もあった。

また、米国議会図書館本若紫巻における異文の可能性のある一三二例を分析すると、独自異文のうち、一字や二字程度の誤字や脱字の例、三字以上異なる例などが合わせて一二〇例近くあった。その他、全く表記内容が異なる十二例が見られた。独自異文は、誤字や脱字と思える箇所も多いが、誤字脱字とは言い切れない独自表記の有無を持つ本文の存在が、米国議会図書館本若紫巻の本文からは窺えた。

四 米国議会図書館本空蟬巻の本文

こうした米国議会図書館本桐壺巻・若紫巻の考察結果をふまえて、空蟬巻の本文について言及する。

米国議会図書館本の空蟬巻には若紫巻同様に欠落した本文部分がある。

〈光源氏が空蟬の寝所に忍び、軒端萩と契る場面〉

まめならぬ御心はこらもえ思し放つまじかりけり。
見たまふかぎりの人は、うちとけたる世なく、ひき
つくろひ側めたる表面をのみこそ見たまへ、かくうち
とけたる人のありさまかいま見などはまだしたま
はざりつることなれば、何心のなうさやかなるはい

とほしながら、久しう見たまはまほしきに、小君出
でくる心地すればやをら出たまひぬ。渡殿の戸口に
寄りゐたまへり、いとかたじけなしと思ひて、「例
ならぬ人はべりてえ近うも寄りはべらず」、「さて今
宵もやかへしてんとする。いとあさましうからうこ
そあべけれ」とのたまへば、「などてか。あなたに
帰りはべりなば、たばかりはべりしなん」と聞こゆ。
さもなびかしつべき気色にこそはあらめ、童なれど、
物の心ばへ、人の気色見つくしづまれるを、と思
すなりけり。碁打ちはてつるにやあらむ、うちそよ
めく心地して人々あかるるけはひなどすなり。「若
君はいづくにおはしますならむ。この御格子は鎖し
てん」とて鳴らすなり。「しづまりぬなり。入りにて、
さらば、たばかれ」とのたまふ。この子も、姉妹の
御心は撓むところなくまめだちたれば、言ひあはせ
む方なくて、人少なならんをりに入れたてまつらんと
思ふなりけり。「紀伊の守の姉妹もこなたにある
か。我にかいま見せさせよ」とのたまへど、「いか
でかさはべらん。格子には几帳添へてはべり」と
〔1〕
〔2〕

『源氏物語』空蟬巻一二二―一二三頁

光源氏が方違えにより、偶然出会った空蟬。その空蟬

に執着した光源氏はその後も度々紀伊守邸を訪れるようになる。小君の手引きによって、囲碁を打つ空蟬を垣間見した直後、光源氏が囲碁の相手であった軒端菰と契るという物語において重要な場面が、米国議会図書館本の空蟬巻では欠落している。若紫巻同様、それをふまえた上で、この欠落した本文以外の部分を、『源氏物語』古写本の二十五本の本文と対校したところ、空蟬巻は凡そ大島本(大)、池田本(池)、伏見天皇本(伏)などに近い本文であると考えられる。

①【LC】なみ／＼ならすかたはらいたしと(二才八)

(大) なみ／＼ならすかたはらいたしと

(尾) なみ／＼ならす心くるしと

②【LC】あつければにや打かけて(二ウ二)

(大) あつければにやうちかけて

(尾) あつければにやみなうちかけてとりやりなと

したれば

③【LC】物あさやかにまみくちつきいとあひきやう

つきて(三才三)

(大) ものあさやかにまみくちつきいとあひきやう

つき

(尾) ものあさやかに

④【LC】該当本文なし

(大) 該当本文なし

(尾) れいにゝすはしたなき心ちしてよふかくいて

給

例えば、①のように、米国議会図書館本【LC】「なみ／＼ならすかたはらいたしと」の箇所は、尾州家本(尾)では「なみ／＼ならす心くるしと」とあるが、大島本(大)「なみ／＼ならすかたはらいたしと」と一致する。同様に、②【LC】「あつければにや打かけて」も、尾州家本「あつければにやみなうちかけてとりやりなとすれば」とは異なり、大島本「あつければにやうちかけて」と一致する。③【LC】「物あさやかにまみくちつきいとあひきやうつき」とも、尾州家本では「ものあさやかに」と簡潔であるが、大島本「ものあさやかにまみくちつきいとあひきやうつき」とほぼ一致している。④においても、尾州家本では、「れいにゝすはしたなき心ちしてよふかくいて給」とある本文箇所が、【LC】には存在せず、大島本と同様である。つまり、米国議会図書館本の空蟬巻は大島本にほぼ近似しているといえる。その一方で、大島本と共通しない異文箇所八十七例を見てみると、そのうちの四十四例が独自異文であり、そ

の独自異文を除く四十三例のうち、三十四例が尾州家本
(尾)・高松宮本(高)・天理河内本(天)などの河内
本系統の本文や、麦生本(麦)・阿里莫本(阿)と一致
しているという特徴がみえる。

〈河内本系統の本文と共通する箇所〉

①【LC】はつかしくてえ(二オ二)

(尾)(高)(天)(飯)はつかしうてえ

(専)はつかしうて^え〇

(大)はつかしくて

②【LC】人ならんと(二ウ四)

(尾)(高)(天)(陽)人ならんと

(飯)ひとならむと

(専)〇^{人ならむ}ト

(大)該当本文なし

③【LC】おかしき(三ウ九)

(尾)(高)おかしき

(天)(陽)をかしき

(大)いとおかしき

④【LC】思ふに(六オ三)

(尾)(天)思に

(高)(陽)思ふに

(飯)おもふに

(大)該当本文なし

〈麦生本・阿里莫本と共通する箇所〉

①【LC】いへは(三ウ一)

(麦)(阿)いへは

(大)いへと

②【LC】ぬきすてたると(六オ七)

(麦)(陽)ぬきすてたると

(阿)ぬきすてたりと

(大)ぬきすへしたると

③【LC】さかしらかりて(六ウ二)

(麦)(阿)(陽)さかしらかりて

(大)さかしかりて

④【LC】ゆくに(六ウ三)

(麦)(阿)ゆくに

(大)く

(正徹)ゆく

⑤【LC】御ありさま(七オ六)

(麦)(阿)御有さま

(大)ありさま

⑥【LC】をとりてける(七オ九)

- (麦) おとりてける
- (阿) をとりてける
- (大) おとりける
- ⑦【LC】こうちきを(七ウ一)
- (麦) (阿) (陽) こうちきを
- (大) こうちきをさすかに
- ⑧【LC】御身ちかく(八オ二)
- (麦) (阿) (吉) 御身ちかう
- (大) みちかく

例えば、〈河内本系統の本文と共通する箇所〉では、大島本と異なる本文は、発音上の①「く」と「う」の差異などはあるものの、尾州家本(尾)・高松宮本(高)・天理河内本(天)とほぼ一致している。専修大宇本(専)においては、①では「はつかしうて」に「え」が傍記され、②では「人ならむ」が傍記されて追加表記されている。さらに、河内本系統の本文の他に、陽明文庫本(陽)・飯島本(飯)とも共通する表記がみえ、興味深い。また、〈麦生本・阿里莫本と共通する箇所〉では、①④⑤⑥のように、大島本と異なる本文において、②「て」と「へ」などの変体仮名の表記の近似性により誤写のように思えるものもあるが、麦生本(麦)・阿里莫本(阿)

としか共通しないものがある。②③⑦のように、麦生本・阿里莫本の他に陽明文庫本(陽)の表記と共通するもの、⑧のように麦生本・阿里莫本の他に吉川家本(毛利家伝来)(吉)の表記とほぼ共通するものも散見される。

さらに、空蟬巻における独自異文の可能性のある全四十四例のうち、前後が移動している例(A)、二文字以内で異なる例(B)、三字以上で異なる例(C)、全く表記が異なる例(D)などがみられる。

- A 前後が移動している例(全一例)
- ①【LC】はしめて世をうしと(一オ二)
- (大) はしめてうしとよを
- B 二文字以内で異なる例(全三十三例のうちの五例)
- ①【LC】いと／＼おかしく(一オ七)
- (大) いといとをしく
- ②【LC】とめんと(一ウ二)
- (大) とちめてんと
- (飯) とちめんと
- ③【LC】まより(二オ五)
- (大) すみのまより
- (陽) すみの

④【LC】あつきに此御（二才五）

（大）あつきにこの

（尾）いとあつきにみ

⑤【LC】とゝむへき（三ウ七）

（大）とゝめつへき

C 三文字以上で異なる例（全三例）

①【LC】てくるまのほそく（二才四）

（大）てさくりのほそく

②【LC】おほえけりおとゝ（二ウ七）

（大）おほえけり

③【LC】こりぬへし（七才五）

（大）おほしこりぬへし

（陽）こりぬへかりけり

D 全く表記内容が異なる例（全七例）

①【LC】該当本文なし

（大）おかしけに

②【LC】なくそおかしけなる人（三才五）

（大）なくおかしけなる人

③【LC】ひとへ／＼を（四ウ八）

（大）ひとへをひとつ

（陽）ひとへのひとかさねを

④【LC】該当本文なし

（大）あえかにも

⑤【LC】おもひ出らん（六才四）

（大）思侍らん

⑥【LC】わうのおもとなめり（六ウ五）

（大）民部のおもとなめり

（尾）せうのおもとなめり

⑦【LC】該当本文なし

（大）おもひて

独自異文かと思われる例のうち、（A）の前後が移動している場合は一例のみで、「世を」「うしと」が逆転して表記されていることから、目移りや写し間違いの可能性が高い。（B）の二文字以内で異なる例は、②の大島本の「とち」の「ち」や大島本「めてん」の「て」、③「すみの」の有無、④の「御」の有無などは脱字の可能性もある。①大島本の「をしく」に「か」の追加された【LC】「おかしく」、⑤の【LC】「とゝむ」の「む」と大島本「とゝめ」の「め」の差異は、変体仮名の近似的性を鑑みると誤字の可能性も考えられる。（C）の三文字以上で異なる例では、①「てくるま」、②「おとゝ」、

③「おほし」のように、誤字脱字では消化しきれないものもあり、また書き間違いにしては言葉の意味として成立しているものもあり、難解である。(D)の全く表記が異なる例は全部で七例あるが、①④⑦のようにLC本に該当本文がないものの、②の【LC】「なくそ」と大島本「なく」の差異、⑤【LC】「出」と大島本「侍」の漢字表記の差異なども見える。③は「つ」と「へ」の表記の近似性による誤写か、「ひとへ」と「ひとつ」を混同しているような表記もあり、⑥などは「わうのおもと」という特異な表記もみえる。ただし、これには【LC】「わう」には「みふ」と傍記がされている。

五 おわりに

以上、米国議会図書館本の書誌、桐壺巻・若紫巻の本文比較を踏まえたうえで、空蟬巻の本文を比較検討した。米国議会図書館本は、昭和初期、渡部榮氏が見て以来行方不明であった五辻諸仲真筆本であり、従一位麗子本との関係性もある重要な一伝本である。

本稿で検討した空蟬巻の本文は、大島本に近い本文であり、大島本とは異なる異文表記は、河内本系統の本文や、陽明文庫本・麦生本・阿里莫本との共通する特徴的

な表記も見られた。これは桐壺巻・若紫巻の本文とも共通した傾向であり、本文の書写経路を探る上でも重要な結果である。

まだ三巻ではあるものの、米国議会図書館本の本文は、大島本を基底として、河内本系統の本文、陽明文庫本・麦生本・阿里莫本などの本文を参考とした流れを汲む写本の一伝本ではないかという方向性が見えてきた。

今後もし引き続き、米国議会図書館本の他巻の本文の検証を進め、最終的には米国議会図書館本の全容を究明したい。

注

(1) 国立国語研究所共同研究プロジェクト「仮名写本による文字表記の史的探究」(代表者…斎藤達哉氏)、人間文化研究機構の人間文化研究連携共同推進事業・平成二十二年度「海外に移出した仮名写本の緊急調査」・平成二十三年度「海外に移出した仮名写本の緊急調査(第二期)」(代表者…高田智和氏)。米国議会図書館における原本の予備調査(二〇一〇年)、詳細調査(二〇一一年・二〇一二年)のうち、二〇一〇年、二〇一一年の調

査メンバーの一人として同行させて戴いた。二〇一二年一月には全巻の翻刻作業が終了し、左記の国立国語研究所HPからテキストが公開されている(国立国語研究所「米国議会図書館蔵『源氏物語』翻字本文 (<http://textdb01.ninjal.ac.jp/1Cgenji/>)。また、原本画像は桐壺・須磨・柏木巻の三巻を米国議会図書館アジア部が公開している。

(<http://lweb4.loc.gov/service/asian/asian001/2012/2012html/20122008427768000toc.html>)。

- (2) 斎藤達哉氏・高田智和氏編『米国議会図書館蔵『源氏物語』翻刻—桐壺・藤裏葉—』(国立国語研究所、二〇一一年三月)。伊藤鉄也氏「米国議会図書館アジア部日本課蔵『源氏物語』の調査概要」(斎藤達哉氏・高田智和氏編『米国議会図書館蔵『源氏物語』翻刻—桐壺・藤裏葉—』(国立国語研究所、二〇一一年三月)。高田智和氏・斎藤達哉氏「米国議会図書館蔵『源氏物語』について—書誌と表記の特徴—」(『国立国語研究所論集』第六号、二〇一三年十一月)。

- (3) 米国議会図書館本の先行研究については、豊島秀範氏「アメリカ議会図書館本の和歌表記の特徴—

和歌の一行散らし書きを中心に—」(『國學院大學大学院平安文学研究』第二号、二〇一〇年九月)、神田久義氏「米国議会図書館本『源氏物語』の書写形態に関する一試論」(豊島秀範氏編『源氏物語本文の研究』國學院大學文学部日本文学科、二〇一一年)、斎藤達哉氏「語の表記における仮名字体の「偏り」と「揺れ」—米国議会図書館蔵源氏物語写本の「ケハヒ」と「カタハライタシ」の表記」(小山利彦氏編著『王朝文学を彩る軌跡』武蔵野書院、二〇一四年)などがある。

- (4) 拙稿「米国議会図書館蔵『源氏物語』の本文—麗子本対校五辻諸仲筆本の出現—」(拙著『源氏物語の伝来と享受の研究』武蔵野書院、二〇一六年所収)、拙稿「米国議会図書館所蔵『源氏物語』の本文の様相—若紫巻を中心に—」(『國學院雑誌』第一一九巻第七号、二〇一八年七月)。

- (5) 森繁夫氏『古筆鑑定と極印』(臨川書店、一九八五年復刻版)所収「古筆了伴大人閑和漢書画古筆鑑定家系譜並印章」に拠る。

- (6) 『尊卑分脉』第三編『新訂増補国史大系』第六〇巻上、吉川弘文館、二〇〇一年、四〇三頁、『公卿補任』第三篇『新訂増補国史大系』五五巻、

吉川弘文館、二〇〇一年新装版、三九八頁）、『増補諸家知譜拙記』五ノ五（続群書類従完成会、一九七七年、一九七頁）、『顯伝明名録』上・巻第二・五一（日本古典全集刊行会、一九三八年、八六頁）、『諸家伝』十・五辻（日本古典全集刊行会、一九三九年、八〇〇頁）などを参照。

(7) 『諸仲藏人奏慶記』（『続群書類従』第十一輯下・公事部装束部、巻第三〇一・公事部、続群書類従完成会、一九五七年、七〇五〜七一〇頁）。

(8) 〈逍遙院流〉の項目「諸仲 五辻殿」（小松茂美氏蔵『明翰鈔』巻二十九・所収「流儀集」、〈逍遙院流〉の項目「緒（諸） 仲 五辻」（静嘉堂文庫蔵『古筆流儀分』一冊）（『小松茂美著作集』第十六巻 日本書流全史二）旺文社、一九九九年、三七五・四〇七頁）。

(9) 『実隆公記』巻五上（続群書類従完成会、一九六三年、九三頁）。

(10) 注（4）の拙稿に同じ。

(11) 渡部榮氏『源氏物語従一位麗子本之研究』（大道社、一九三六年）。復刻版として、日向一雅氏監修解題『源氏物語研究叢書 第六巻 源氏物語従一位麗子本之研究』（クレス出版、一九九七年）

がある。

(12) 北小路健（渡部榮）氏『古文書の面白さ』（新潮社、一九八四年、二三〜二四頁、三〇〜三一頁）を参照。著書『古文書の面白さ』によれば、渡部

榮氏は福島県生まれ、東京文理科大学国文科を卒業、教壇生活等を経て、玉井幸助氏、能登朝次氏、山岸徳平氏らに師事し、『源氏物語』の研究を行う。主な著作として、『源氏物語従一位麗子本之研究』の他、『源氏物語律調論』（文学社、一九四〇年）、『遊女 その歴史と哀歓』（人物往来社、一九六四年）、『木曾路 文献の旅』（芸艸堂、一九七〇年）等がある。

(13) 池田利夫氏「源氏物語の古写本」（別冊國文學『源氏物語事典』特装版、学燈社、一九九三年六月、三六〇〜三六六頁）。

(14) 注（11）に同じ。

(15) 桐壺巻において、比較対象とした写本の出典は以下の通りである。

・（池）池田本 天理大学附属天理図書館蔵『源氏物語』（請求記号…九一三・三六／イ九五）紙焼写真
・（肖）肖柏本、（国）国冬本、（麦）麦生本、

- ・(阿) 阿里莫本 『源氏物語別本集成』 第一卷 (桜楓社、一九八九年)、『源氏物語別本集成続』 第一卷 (おうふう、二〇〇五年)
- ・(三) 日大三条西家本 『日本大学蔵 源氏物語』 第一卷 (八木書店、一九九四年)
- ・(書) 書陵部三条西家本 『宮内庁書陵部蔵青表紙本 源氏物語』 第一冊 (新典社、一九六八年)
- ・(大) 大島本 『大島本 源氏物語』 第一卷 (角川書店、一九九六年)
- ・(明) 明融本 『源氏物語 明融本』 第一卷 (東海大学出版会、一九九〇年)
- ・(伏) 伏見天皇本 『伏見天皇本影印 源氏物語』 第一冊 (古典文庫、一九九一年)
- ・(穂) 穂久邇文庫本 『日本古典文学影印叢刊 源氏物語』 第一卷 (貴重本刊行会、一九七九年)
- ・(保) 保坂本 『保坂本 源氏物語』 第一卷 (おうふう、一九九五年)
- ・(飯) 飯島本 『飯島本 源氏物語』 第一卷 (笠間書院、二〇〇八年)
- ・(国徹) 人間文化研究機構・国文学研究資料館所蔵『源氏物語』(請求記号…サ四/七五/一一)

- ・(京徹) 京都女子大学図書館古澤文庫蔵『きりつほ』(請求記号…吉澤文庫/YK/九一三・三六/M)のマイクロ(国文学研究資料館所蔵、請求記号…二四二/七二/七)の紙焼写真
- ・(慶徹) 慶應義塾図書館所蔵『源氏物語』(請求記号…三二X/一五八/二)
- ・(書徹) 宮内庁書陵部蔵『源氏物語』(請求記号…五五四/一四、複四〇三二)
- ・(為秀) 専修大学図書館所蔵『源氏物語』伝冷泉為秀筆本(請求記号…A/九一三・三/MU五六)
- ・(孝親) 専修大学図書館所蔵『源氏物語』伝中山孝親筆(請求記号…A/九一三・三/MU五六)
- ・(高) 高松宮本 『高松宮御蔵河内本 源氏物語』 第一卷 (臨川書店、一九七三年)
- ・(尾) 尾州家本 『尾州家河内本 源氏物語』 第一卷 (八木書店、二〇一〇年)
- ・(平) 平瀬本 文化庁蔵『源氏物語』紙焼写真
- ・(御) 御物本 『御物 各筆源氏』 第一冊 (貴重本刊行会、一九八六年)
- ・(陽) 陽明文庫本 『陽明叢書国書篇 源氏物語』 第一卷 (思文閣出版、一九七九年)

・（大正）大正大本 大正大学附属図書館蔵「貴重書画像公開 源氏物語写本」の電子データに拠る。

・（絵入）絵入源氏 専修大学図書館蔵『絵入源氏物語』承応三年版（請求記号・A／九一三・三／MU五六）

・（九大）九大古活字本 九州大学附属図書館蔵「九大コレクション貴重資料画像」『源氏物語』古活字本の電子データに拠る。

（<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/search/browse/rare>）

・（湖月）湖月抄 専修大学図書館蔵『湖月抄』（請求記号・A／九一三・三／Ki六八）

・（首書）首書源氏 『首書源氏物語』第一卷（和泉書院、一九八〇年）、『首書源氏物語本文』上巻（東京図書出版、一九四四年）

・（仏）（慈）伊藤欽也氏「桐壺」の第二次的本文資料集成―伝阿仏尼筆本・伝慈鎮筆本・従一位麗子本・源氏釈抄出本―」（『源氏物語本文の研究』おうふう、二〇〇二年）の翻刻活字資料（伝阿仏尼筆本、室伏信助氏校合本）に拠る。

（16）注（15）の写本のうち、大島本、日大三条西家本、

肖柏本、御物本、池田本、穂久邇文庫本、高松宮本、尾州家本、伏見天皇本、保坂本、陽明文庫本、国冬本、麦生本、阿里莫本を対校本文とし、中山本、天理河内本、橋本本を加えて、計十七本を若紫巻の対校本文とした。

・（中）中山本 『源氏物語別本集成』第二巻（桜楓社、一九八九年）

・（天）天理河内本 『源氏物語別本集成続』第二巻（おうふう、二〇〇五年）

・（橋）橋本本 『源氏物語別本集成続』第二巻（おうふう、二〇〇五年）、『国文学研究資料館蔵橋本本『源氏物語』「若紫巻」』（新典社、二〇一六年）

（17）新編日本古典文学全集『源氏物語』一（小学館、一九九四年）。

（18）注（15）（16）の写本のうち、大島本、日大三条西家本、肖柏本、御物本、池田本、穂久邇文庫本、高松宮本、尾州家本、伏見天皇本、保坂本、陽明文庫本、国冬本、麦生本、阿里莫本、明融本、平瀬本、飯島本、国文研蔵正徹本、天理河内本を対校本文とし、前田家本・七毫源氏・中京大本・吉川家本（毛利家伝来）・吉川家本（大内家伝来）・

専修大学本を加えて、計二十五本を空蟬巻の対校本文とした。

・（前）前田家本 『源氏物語別本集成続』第二巻（おうふう、二〇〇五年）

・（七）七毫源氏 東山御文庫蔵七毫『源氏物語』（写真版）

・（中）中京大本 中京大学図書館蔵大島本『源氏物語』（写真版）

・（吉）吉川家本（毛利家伝来） 吉川史料館蔵毛利家伝来『源氏物語』（写真版）

・（川）吉川家本（大内家伝来） 吉川史料館蔵大内家伝来『源氏物語』（写真版）

・（専）専修大学本 専修大学図書館所蔵蜂須賀家旧蔵本・今川了俊筆『源氏物語』空蟬巻（応永一七年写、一軸、請求記号…A／九一三・三／MU五六）、新美哲彦氏『源氏物語の受容と生成』（武蔵野書院、二〇〇八年）の資料翻刻（二三九～二七一頁）を参照した。

米国議会図書館本の空蟬巻の各本文引用の終わりに記した記号は丁数と行を示す。例えば、（一才八）は、一丁表（オモテ）の八行目という意味である。

また、空蟬の本文に関しては、豊島秀範氏編『源氏物語本文のデータ化と新提言Ⅲ』（二〇一四年三月）の資料翻刻も参照した。

（本学専任講師）